

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 3 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 17 年 2 月 10 日 (2005.2.10)

【公表番号】特表 2000-510446 (P2000-510446A)

【公表日】平成 12 年 8 月 15 日 (2000.8.15)

【出願番号】特願平 9-535663

【国際特許分類第 7 版】

C 07 H 21/00  
 A 61 P 43/00  
 A 61 K 31/712  
 A 61 K 31/7125  
 A 61 K 38/46  
 A 61 K 48/00  
 C 12 N 9/22  
 C 12 N 15/09  
 C 12 Q 1/68

【F I】

C 07 H 21/00  
 A 61 K 31/00 6 4 3 B  
 A 61 K 31/70 6 2 7  
 A 61 K 31/70 6 2 8  
 A 61 K 48/00  
 C 12 N 9/22  
 C 12 Q 1/68 Z  
 A 61 K 37/54  
 C 12 N 15/00 Z N A A

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 6 月 7 日 (2004.6.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】



## 手 続 補 正 書

平成16年6月7日

特許庁長官 殿

## 1. 事件の表示

平成9年特許願第535663号

## 2. 補正をする者

名 称 アイシス・ファーマシューティカルス・インコーポレーテッド

## 3. 代 理 人

住 所 東京都千代田区大手町二丁目2番1号 新大手町ビル206区  
ユアサハラ法律特許事務所

電 話 3270-6641~6

氏 名 (8970) 弁理士 社 本 一 夫



## 4. 補正対象書類名

請求の範囲

## 5. 補正対象項目名

請求の範囲

## 6. 補正の内容

別紙の通り



(別 紙)

## 請求の範囲

1. RNA標的に特異的にハイブリダイズすることができる合成のオリゴマー化合物であって、

(a) 少なくとも1つの修飾リボフラノシルヌクレオシドを有する第1のセグメントであって、該ヌクレオシドが、修飾されていない化合物と比較して、化合物の薬物動態学的結合、吸収、分布またはクリアランス特性；前記オリゴマー化合物の前記標的RNAに対する親和性または特異性；または前記化合物の電荷の改変、の少なくとも1つを改良するように修飾されているセグメント；および

(b) 第2のセグメントであって、2'-ヒドロキシル成分をそこに有する少なくとも4個の連続するリボフラノシルヌクレオシドを含むセグメント；を含み、前記オリゴマー化合物は、

(i) 前記オリゴマー化合物の前記ヌクレオシドが、ホスホジエステル結合と比較して分解に対して安定であるヌクレオチド間結合により連結されており、

(i i) 前記修飾リボフラノシルヌクレオシドの少なくとも1つが、前記オリゴマー化合物の3' 及び5' 末端の各々に位置することを特徴とする、合成のオリゴマー化合物。

2. 前記第2のセグメントが2'-ヒドロキシル成分をそこに有する少なくとも5個の連続するリボフラノシルヌクレオシドを有する、請求項1記載の合成のオリゴマー化合物。

3. 前記第2のセグメントが2'-ヒドロキシル成分をそこに有する少なくとも7個の連続するリボフラノシルヌクレオシドを有する、請求項1記載の合成のオリゴマー化合物。

4. 前記第2のセグメントが2'-ヒドロキシル成分をそこに有する少なくとも9個の連続するリボフラノシルヌクレオシドを有する、請求項1記載の合成のオリゴマー化合物。

5. 第1のオリゴヌクレオチドおよび第2のオリゴヌクレオチドを含むデュプレックスであって、

第1のオリゴヌクレオチドは、請求項1の合成のオリゴマー化合物を含み、前

記第1のオリゴヌクレオチドおよび前記第2のオリゴヌクレオチドはそれぞれ少なくとも4個の連続するリボフラノシルヌクレオシドを有する中心部分を有し、ここで前記中心部分は前記デュプレックス中において互いに塩基対を形成することを特徴とするデュプレックス。

6. 二本鎖RNA基質である請求項5記載のデュプレックス。

7. 二本鎖RNA基質の分解を触媒する活性を有する単離された哺乳動物リボヌクレアーゼであって、前記基質の前記鎖の一方はRNAであり、および前記基質の前記鎖の他方は、5'2'-ヒドロキシル成分をそこに有する少なくとも4個の連続するリボフラノシルヌクレオシドを含み、哺乳動物リボヌクレアーゼの活性がNaClにより阻害され；

Mg++を必要とし；および

該哺乳動物リボヌクレアーゼがSDS-PAGEにより決定して約50から約80キロダルトンの見かけの分子量を有する、  
哺乳動物リボヌクレアーゼ。